

疾患栄養治療部

Department of Metabolism and Clinical Nutrition

疾患栄養治療部長
稲垣 暢也



栄養のスペシャリストとして

当部は、病院全体の患者給食の運営、栄養管理を担っている。病棟担当栄養士制度を導入し、入院早期からの栄養管理計画に基づく栄養治療を推進し、NST活動における主導的な役割を果たすべく、病棟スタッフとの連携を密にした患者個々への積極的な栄養管理、栄養状態改善へ向けた食事調整や栄養剤の選択・提案、下痢症状などへの対応他、ベッドサイドでの実践的な栄養治療のサポートを行い、種々の生理機能検査を活用した栄養アセスメントも実施している。また、当部では最新エビデンスに基づく栄養治療の実践とそれらを担う人材育成をめざし、管理栄養士免許以外の病態栄養専門師、糖尿病療養指導士、健康運動指導士など専門的資格の積極的な取得を進めている。

代表的診療対象疾患

糖尿病、脂質異常症、肥満症、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃腸疾患、炎症性腸疾患（IBD）、アレルギー、食思不振症他、全疾患に対応

業務内容の特徴と実績

国立大学唯一の臨床栄養学教室として認可

疾患栄養治療部は、その前身を1933年京大病院に設立されて以来病院院内機構として存続していた栄養治療室に遡り、1981年に文部省より国立大学唯一の臨床栄養学教室として医学部附属病院の中央診療施設の一つに正式に認可された。時代が、「不足の栄養学」から栄養素の過剰摂取に基づく「過剰の栄養学」へと変貌してきた流れのなかで、特に管理栄養士と医師が一体化して常に社会や時代のニーズに対応できる診療および研究の展開をめざしている。

栄養管理部門と代謝機能測定部門で構成

当部は、栄養管理部門と代謝機能測定部門からなり、栄養管理部門は、(①給食)病院全体の患者給食の運営、栄養管理を担当し、献立の作成指導、食材の管理、調理指導、厨房の衛生管理、個別の患者給食の管理など多岐にわたる業務を担うとともに、(②栄養指導)外来、入院患者に対する栄養指導を個別、集団の形態で行い、テーラーメイドの栄養教育を実践し、チーム医療として看護師、薬剤師他との連携にも力を入れている。

2013年度の栄養指導件数は10,565件を数え、全国国立大学病院でのリーダー的な役割を担いつつ、調理実習や食事会を取り入れた各疾患別の集団教室は地域の方々にも大変好評を得ている。このほか全入院患者に対する(③栄養管理計画)を実施し、特に綿密な栄養アセスメントとより積極的介入を行うNST活動をこの1年で184件行った。

代謝機能測定部門では、心電図R-R間隔変動率測定(自律神経機能検査)、体組成測定、基礎代謝量測定、経皮(末梢血)酸素分圧検査、サーモグラフィー検査、骨塩定量測定(超音波法)などの栄養アセスメントや糖尿病の合併症の評価に重要な生理機能検査を担当し、2013年度は延べ826件の検査を行った。



その他の取り組み

幅広い対象患者に応じた工夫を実施

すべての入院患者において、栄養状態の改善がよりよい治療効果につながるの考えのもとに、静脈栄養管理から積極的な経腸栄養法への移行、食事介入へのさまざまな取り組みを行っている。化学療法後の患者さんを対象とした16種類にも及ぶ選択メニューの追加、小児科無菌食用の選択メニューなど、幅広い対象患者に応じた工夫を行っている。また、より快適な入院生活への取り組みの一環として、産科での出産「お祝い膳」の提供も行い好評を得ている。

